

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010140

政策目標	3	のひやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	B		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	学校図書整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	計画的な図書整備		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
事業目標	全校		関係例規・法令名	有	学校図書館法	
住民参加	無		関係個別計画名	無		
住民協働	無					

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	学校図書館の充実	学校図書の購入	学校図書の購入	学校図書の購入	学校図書の購入	学校図書の購入
	各小中学校の学校図書購入					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	8,000	1,600	1,600	1,600	1,600
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	8,000	1,600	1,600	1,600	1,600	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,042	1,533	1,509	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	3,042	1,533	1,509			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		【評価・実績】	各小中学校の学校図書購入	各小中学校の学校図書購入		
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	全校	全校	全校	全校
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	96%	94%	0%	0%
	全体達成率	19%	38%	38%	38%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	学校図書整備事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	澤田 朋 朗
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課教育総務係長	武 藤 知 憲

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	計画的な図書配備を行う学校数	
【抱える課題やニーズは】	児童・生徒の発達段階に見合う継続性ある図書整備が必要である。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	学校図書館の図書の充実及び児童・生徒の読書意欲等の促進を図る。	① 町内学校数	目標年度	平成26年度
			目標値	6校
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童・生徒の発達段階に見合う継続性ある図書整備により、健全な教養を育成するとともに、自ら学ぶ意欲の向上が図られる。	②	実績値	6校
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	図書備品購入費の配当	国の定める基準に基づき、学校へ図書購入費を配当しています。		
	図書の購入	学校からの購入申請について、内容審査のうえ承認し、学校が購入しています。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	学校図書の整備は教育課程において、必須とされるものであり、
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	教育内容の充実、教育環境を整備する上において、学校図書の購入、更新は必要であると判断します
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	教育課程において必要な図書をもって、豊かな人間形成を推進するとともに、常に変化する社会に適応した図書の配備により、児童、生徒の健全な教養が育成されていると判断します。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町図書館との連携により、重複した図書購入の防止等に努めています。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童、生徒に対する必要な図書整備を進めており、図書利用の公平性が保たれていると判断します。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
学校図書の整備により、児童、生徒の健全な教養の育成が図られており、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
教育課程において必要とされる図書及び時代に即した図書を計画的に配備することにより、児童、生徒の健全な教養が育成されており、今後も計画的に事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止